

にいがた



発行日 毎週日曜日 発行所 新潟市役所 〒951 編集 市長公室広報課
学校町通1-602-1 印刷 鶴第一印刷所

市の人口 <4月1日現在>

人口	475,842人
60歳以上人口	83,156人 (17.4%)
65歳以上人口	56,810人 (11.9%)

住民基本台帳による



活力ある長寿社会の基本は、生涯にわたり安心して生活できること、いつまでも健康で生きがいのある生活が送れることです。そして、私たち一人ひとりが社会の一員として、それぞれ役割を担っていくことです。

そこで今回は、高齢化社会に向かう中、さまざまな方面で活発に「生き生き人生」を歩んでおられる方々を紹介いたします。

高齢化社会に向けて

生き生き人生

国際化、情報化、高齢化という新しい時代の潮流の中で、都市基盤の充実、保健福祉の増進、教育文化の振興、国際交流の推進など、市政の全般にわたり、これまでも増進して創造的な取り組みが求められております。

そんな中で、人口の急速な高齢化に伴って、いまだ経験したことのない長寿社会の到来に向けた各分野における対策が重要な課題となっております。

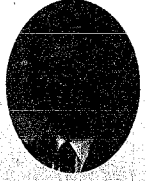
高齢者福祉の分野においては、在宅福祉の充実をはじめ高齢者向けの住環境の整備や老人ホームなど施設整備を行う一方、大多数の健康な高齢者の皆さんの生きがい推進を重要な柱とした「生きがいと健康づくり事業」を大幅に拡充してスタートさせました。

先日、千葉大学名誉教授の多湖輝先生を招き、先日、千葉大学で開催いたしました「生き生き講演会」や関係機関等とタイアップした事業を幅広く展開しており、十月三十日には陸上競技場を会場に高齢者向けの「ニッパスボーツの体験コーナー」なども企画しております。

活力ある長寿社会を目指す時、高齢者が果たす役割はますます大きくなってまいります。一家の大黒柱としてなくてはならない人、ボランティア活動をしている人、レンタル人材センターで頑張っている人、千世たね言の遊びを教えている人、老人クラブで頑張っている人、実にさまざまなおられる多くの皆さんが活躍しております。

こうした、色々な方面で活躍されている先輩方を拝見し、これからの高齢化社会を盛り上げることができるものと新たな希望を抱いております。

魅力にあふれた、次の世代に誇りを持つ引き継ぐことのできる活力ある長寿社会づくりのために、これからも市民の皆さんの協力をいただきます。力を注いでまいります。



新潟市長
長谷川義明